

教育センターだより

第50号 令和4年1月7日発行

日野市立教育センター 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0505 Fax 042-592-1148 午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分 休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始	わかば教室 〒191-0042 東京都日野市程久保 550 番地 電話 042-592-0863 Fax 042-592-1148 午前 9 時から午後 4 時 休業日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始
---	--

教育センターだより第 50 号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 正 留 久 巳

本年度もスタートからコロナ禍により、学校現場も行事を含め様々な活動の計画を変更しなければなりませんでした。東京オリンピックは無観客での実施となりました。パラリンピックも多くの制限の中での実施となりました。子供たちには、実際の観戦を通し肌で感動を感じてほしかったです。しかし、映像から、全力を尽くすアスリートたちの姿に、感じるものは多くあったと思います。

コロナ感染が減少していく中、学校行事も工夫して行われました。少しずつではありますが研究授業も進められ、いろいろな成果に結びつこうとしております。教育センターも第3次日野市学校教育基本構想の具現化に向け、各事業を進めているところです。理科教育では、新たな教材の提供や、多摩動物公園での研修や関係機関の出前授業などが実施できました。郷土教育では夏季研修を行い、2学期は研究授業を実施したところです。オンラインではなく、目の当たりにする子供たちの活動に得るものも多く、改めて研究の大切さを再認識しました。これから、他の事業を含め、年度末に向けまとめに入っていきますが、学校教育基本構想の3年目として最後まで一層の努力を、現場と連携しつつ進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」及び「郷土教育推進の研究」に取り組んでいます。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

理科教育推進研究委員会では、日々の授業を「ひのつ子が主体となる理科授業」とするための調査や研究に今年度も取り組んでいます。今号では、小学校5年理科「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元に日野の自然を取り入れた資料提供と、教科書に基づく実験セットの作成及び貸し出しについて紹介します。

（1）日野の自然を取り入れる

小学校5年「流れる水のはたらきと土地の変化」では、流れる水の速さと河原の石の大きさや形の変化を調べる学習内容があります。教科書では熊本県の緑川、大阪府の猪名川、愛知県の豊川、そして山形県の最上川が取り上げられ、「山の中を流れる川」「平地に流れ出た川」「平地を流れる川」の3つの部分を資料として提示しています。

日野市には、市内を流れる「浅川」や「多摩川」があります。これらを教材として活用することで、直接観察に出かけることが可能になり、私たちが生活する地域を知る上でも有益な学習となると考えました。

そこで今年度は、八王子市から日野市にわたる「浅川」を取り上げることにしました。

◎浅川を調査し、資料を作成する

浅川は、関東山地の陣馬山の中腹、標高650m付近を水源に八王子市、日野市と流れて多摩川に合流しています。そこで、前記教科書の資料写真との比較を考えて図-2

の3地点を教材

として選定し、地図の中に映像及び流れの動画として入れ込み、日野オリジナルの資料として作成しました。

図-1 大日本図書「たのしい理科5年」より



図-2 浅川の流れと比べる



（２）「流れる水のはたらき」実験セットの作成、貸し出し

教科書に紹介されている実験セット、各校で作成できれば良いのですが、実際はなかなか手のかかることです。そこで教育センターで作成したところ、水の流れる土を削る様子を再現することができました。



市内の小学校に紹介し、今年度は2校で使ってもらえました。次のような感想が寄せられました。

「水の流れる様子がよく観察できました。」「理科室で落ち着いた環境で実験ができ、学びが多かったと思います。」「説明の動画は、子どもたちの使った道具と全く同じなので、実験後の確認や考察場面で見せるのにとても効果的でした。」

2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

（１） 郷土教育推進研究委員会 ～2年ぶりの研究授業!!～

- ① 研究主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」と定めて、第3次日野市学校教育基本構想が示す「疑問や驚きから生まれる問いを大切にして、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く」学習過程や、「地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく」授業の実現を目指しました。

② 研究組織と研究方法



友だちと考えを交流（研究授業）

委員会は、幼稚園教諭1名、小学校教諭16名（1名欠員）、ふるさと文化財課学芸員2名、中央図書館司書1名、中央公民館職員1名です。全体をA B C Dの4グループに分け、そこに顧問が1名ずつ加わりました。グループのリーダー「世話人」を互選で決めました。グループごとに研究テーマを設け、それを受けて個々人が実践研究に取り組むとともに、どのグループも研究授業を1回実施しました。コロナ禍のため、2年ぶりの研究授業でした。

③ 各グループの研究

【Aグループ】研究テーマ；主体的な学びから郷土にふれ、郷土を愛する児童の育成

研究授業；4年 道徳科 郷土愛 「平山おかぼ」 10月26日（火） 滝合小学校
○平山陸稲の発見者である林丈太郎の努力する心情を考えさせ、その後、児童自身に郷土にできることを考えさせたことが良かった。○丈太郎の努力について皆で考え合ったり、児童の郷土に対する思いを交流したりする時間の確保が課題である。

【Bグループ】研究テーマ；郷土への愛着を深める ～身近な地域をもっと知ろう～

研究授業；4年 国語科 詩「感動を言葉に」 11月30日（火） 旭が丘小学校
○郷土の詩人 巽聖歌を単元計画の中で取り上げ、詩を書く時のポイントを学ばせたのが効果的だった。○児童が詩を発表するとき、詩の基となった地域の画像も提示したかった。

【Cグループ】研究テーマ；日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して

研究授業；4年 総合的な学習の時間 「日野のいいところ見つけ」 10月26日（火）
日野第一小学校 ○単元の導入時にフィールドワークを行ったことで、児童の興味・関心を高めることができ良かった。○学び方（やり方）を学ばせることや、グループやペア学習の楽しさを訓練することを通して、「深い学び」を提供していただくことが課題である。

【Dグループ】研究テーマ；日野の新たな魅力発見！

研究授業；6年 社会科 「明治の新しい国づくり」 11月30日（火） 平山小学校
○シルクや繭の実物を展示して養蚕に興味をもたせ、日野の産業に関連させて明治政府の殖産興業政策を捉えさせるという構想が良かった。○資料から何を読み取らせるか（日野市に関わるのかテーマに関わるのか）を、事前に精査しておきたかった。

（2）夏季研修会 ～グループで考えたフィールドワークのコース～

前年度はコロナ禍で中止でしたが、今年度は感染防止対策を講じた上で、7月28日（水）に実施しました。午前は日野宿を視点にしたフィールドワーク。密を避けるために一斉行動をせず、グループごとにコースを決めて、山下堀、桑ハウス、日野宿交流館などを見学しました。「グループの課題に合った研修ができた」「日野について知ることができてよかった」など好評でした。午後は、ふるさと文化財課の学芸員から、「新選組と日野宿」「真慈悲寺と鎌倉幕府」などの講義を聞きました。



桑ハウスにて（フィールドワーク）

（3）若手教員（1年次）育成研修会夏季課題別研修支援

～全員の郷土教育への関心が高まる～

（2）の夏季研修会と同時開催しました。午前は、初任者のグループで決めたコースでフィールドワークを行い、午後は、「新選組と日野煉瓦」「日野の養蚕」などの講義を聞きました。研修生からは、「日野の歴史を肌で感じることができた」「学んだことを2学期からの授業で活かしたい」などの感想がたくさん聞かれました。コロナ禍に初めて、初任者同士が交流しました。

（4）わかば教室との連携 ～平山陸稲作りと考古学体験～



土器の模様の付け方（考古学体験）

平山陸稲の苗作りから始まり、田植え～かかしづくり～稲刈り～脱穀・精米～試食までをわかば教室の子供たちと共に行いました。1粒の種籾から沢山の米が実った感動は、林丈太郎が感じた気持ちにつながったかもしれません。

考古学体験では、市内万蔵院台から出土した縄文土器の展示を見学し、ふるさと文化財課の学芸員に解説していただきました。教室に戻って、実物の石器や土器片の洗浄をし、縄文の人々がどのようにして石器や土器を作ったのか、どのような使い方をしたのかも分かりやすく説明していただきました。子供たちは、縄文人の知恵に感心していました。

Ⅱ 研修部

教職員研修係

研修部では、日野市教育委員会学校課が計画した研修事業を支援する業務を行っています。

1 若手教員育成研修(1、2、3年次)

(1) 1年次教員の授業観察における指導

1回目の授業観察は順調に進みましたが2回目は感染症予防対策などのため、日時の変更が多く、終了は11月頃になりました。1年次教員における授業観察の主な観点は、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか、説明を児童・生徒の理解度を把握しながら行っているか、発問のタイミングが適切で、児童・生徒の考えや意見を引き出せているか、板書では計画性があり学習の流れを示しているか、ICT機器の適切で効果的な活用がみられるか、などです。担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向けた改善策を話し合いながら指導に当たっています。



2回目の授業観察では、1回目の時よりも落ち着きや安定感が増し、授業の流れにもゆとりを感じるようになりました。3回目の授業観察は12月から1月にかけて実施します。

(2) 2、3年次教員の授業観察における指導

2年次教員における授業観察の主な観点は、授業のねらいが明確で流れにもメリハリがあり、山場を明確にした授業展開になっているかなどで、具体的な実践例を示し指導に努めています。また、興味・関心を高める教材開発やICT機器を効果的に活用するための助言も行っています。

3年次教員では、問題解決型授業への取り組みがみられるか、コミュニケーション能力を高め表現力を育成しようとしているか、児童・生徒の興味・関心を引き出す教材教具の開発をしているかなどを主な観点として指導しています。また、外部との連携や学校の組織的な動きなどについても助言を行っています。

2年次および3年次若手教員の着実な成長を目の当たりにするとき、本人の日々の努力はもちろん、多くの先輩教員による地道で丁寧な指導があったことを強く感じています。

2 若手教員育成研修(2、3年次)(夏季に実施された半日研修)



「研修中の2年次若手教員」



「研修中の3年次若手教員」

7月29日(木)に2年次、3年次の若手教員育成研修会が教育センター講堂で行われました。午前中は2年次若手教員の研修で、「児童・生徒の主体的な学習を促す授業づくり」と題し、演習と講話がありました。講師は七生緑小学校の指導教諭(音楽)の先生です。

午後は3年次若手教員の研修で、「外部機関との連携及び組織的対応」と「保護者対応の基礎」について、それぞれの担当者や現場の先生からの講話がありました。

センター所員は上記研修会をはじめ、夏季休業中に開催された課題別研修会や教育センター講堂などで行われる研修会の受付、会場設営等の支援業務を行いました。

Ⅲ 相談部

わかば教室

相談部「わかば教室」は長期欠席の児童生徒が、安定した心理状態で過ごせる場所であり、人との関わりを通して、社会性や自立心の育成を目指しています。

1 「わかば教室」の取り組みと児童生徒の状況

「一人ひとりが各自のペースで心や体のエネルギーを蓄える場所」を目指しています。

(1) わかばタイム

タイム3の時間では、小学生と中学生が合同で授業をします。

- ・「ことば」→古典・書写
- ・「スポーツ」→球技・ゲーム
- ・「音楽」→ハンドベル演奏
- ・「栽培」→野菜・花の栽培
- ・「図工・美術」→陶芸・版画・水彩画

基本的な学習を個人のペースで少しずつ進めています。

令和3年度 わかば教室 時間割(第1版)

R3.4.19～

曜日	月		火		水		木		金	
タイム	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生
9:20～9:30	卓月の会									
タイム1 9:30～10:10	国語		算数	数学	国語	英語	英語		算数	数学
タイム2 10:20～11:00	総合		eラーニング		総合		eラーニング		SST	国語
タイム3 11:10～12:00	わかばタイム 〔ことば〕		わかばタイム 〔スポーツ〕		わかばタイム 〔音楽〕		わかばタイム 〔栽培〕		わかばタイム 〔図工・美術〕	
昼食・昼休み ～13:15			掃除 13:00～13:15						掃除 13:00～13:15	
タイム4 13:15～13:45	わかデミー	わかデミー	わかデミー	わかデミー	帰りの会 13:00～13:10		SST	SST	わかデミー	わかデミー
タイム5 13:55～14:25	小学生 帰りの会	わかデミー	小学生 帰りの会	わかデミー	申込eラーニング 14:00～16:00		小学生 帰りの会		小学生 帰りの会	わかデミー
		中学生 帰りの会		中学生 帰りの会						中学生 帰りの会

＜事例＞

「栽培」の授業から

栽培の授業はグラウンドの畑で実施しています。自然の中で季節を感じ、土に触れる貴重な時間になっています。雑草を抜き、畑を耕し、土づくりから始まります。

野菜はキャベツ・大根・カブ・ブロッコリー・玉ねぎ・ほうれん草・人参・小松菜を、また、アネモネ・キンセンカの花を育てています。大地から「命」について学びを深めています。

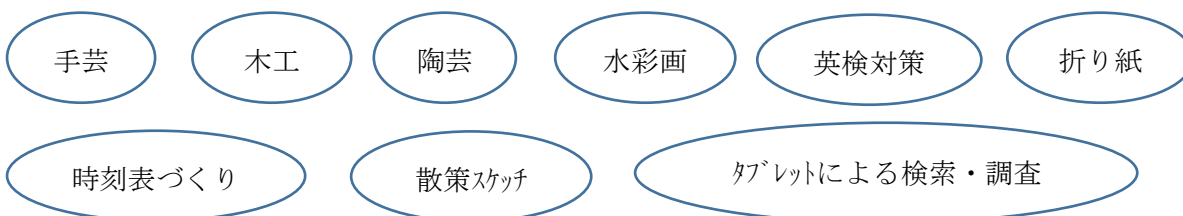


(2) わかデミー (学習支援)

自分がやりたいことを自分で考えて決める (自主性・主体性を育てる) ことが目標の時間です。今ここでしかできない学びや探究を進める時間となっています。

☆考える→計画する→実行する→振り返り→表現する→やり方を工夫する→共有する

【児童・生徒のわかデミーの取り組み】



(3) S S T (ソーシャル・スキル・トレーニング)

コミュニケーションスキル・自己認知スキル・社会的行動が身につくためのトレーニングを行っています。具体的にはゲームやエンカウンターワークシートを使って自分の考えや他の人の意見を聞き、自分自身を客観的に見つめる場面を作ったり、少人数でのグループトークを行っています。スキルの向上を図っています。



(4) e ラーニング

e ラーニングは火曜日と木曜日の週二回行っています。パソコンルームで一人一台のPCを使い、インタラクティブスタディ (国、数、英、社、理)、タイピング、ペイント、プログラミング、Word のいずれかを自分で選び、取り組んでいます。プログラミングを通して先を見通す力や、工夫して考える力がついてきます。

(5) 行事 (実施できた行事)

①季節の散策授業 (11月)

戸外散策で季節を感じながらスケッチ、写真、俳句創作をしたり、タブレットを使ってスライドショーを編集したりしました。

②顕微鏡授業 (11月)

日本電子株式会社の担当の方を講師にお招きし、実際に電子顕微鏡で拡大された画像をリモート授業で交信し、観察授業を行いました。

③スポーツ大会 (12月)

ディスクサッカーやドッジビーなどの種目で、チームごとに協力して試合に臨んだり、競い合ったりする姿勢が見られ、スポーツへの興味と関心を高めることができました。

④陸稲(おかぼ)の田植え、稲刈り体験 (12月)

郷土資料館の担当者を講師にお招きし、「平山陸稲」の春の田植えから、秋晴れの空の下での稲刈りまでを、体験を通して学習しました。最後に脱穀・粳摺りをした陸稲を炊いて試食しました。

⑤学習発表会 (11月)

水彩画、焼き物、どんぐりオブジェ、木工作品、書写、折り紙、絵ハガキ、ペイント作品、スライドショーなど授業で取り組んだ作品を展示しました。児童・生徒や保護者・来賓の皆様方が作品を鑑賞しました。

⑥考古学体験 (12月)

日野市ふるさと文化財課の学芸員を講師にお招きし、日野市内の遺跡で見つかった縄文土器を水洗いするなどの体験を通して、当時の暮らしについて学ぶことができました。



2 カウンセラーによる相談

わかば教室では、カウンセラーが常駐しています。通室してくる児童・生徒(以下、子供たち)の一人ひとりの状況に応じて丁寧に寄りそっていくことを大事にしています。

集団を苦手とする子供たちが多くいます。また、保護者の方々の不安や悩みも少なくありません。子供たちはもちろん、保護者の方の不安や悩みを少しでも和らげることができるように随時相談を受け付けています。